

第2次千葉市文化芸術振興計画 事業視察シート

視察者	桜井 まどか
-----	--------

基本施策名	基本施策5_文化芸術によって千葉の魅力を「活かす」	
	(1)魅力ある資源の活用	
事業名	地域の歴史文化を活かした展示「いなげ八景水彩画コンクール作品展」	
実施主体	指定管理者	(名称) 公益財団法人千葉市教育振興財団
会場	千葉市民ギャラリー・いなげ	
日時	令和 2年 11月14日 (土) 14時00分～15時50分	

【チェックポイント】 ※以下の点に着目して評価してください。

評価指標 2 戦略的な視点・基本姿勢との適合	
(1)市民主体	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> ほぼ妥当 <input type="checkbox"/> 工夫により改善 <input type="checkbox"/> 見直し (評価の理由) 「いなげ八景」を伝える水彩絵画展として展示スペースの規模感はコンパクトな印象だが、F6サイズに統一された水彩画にまとまりが感じられた。展示室には該当地域の大マップ1点が展示され、絵画展のテーマが明確に示されていた。 いずれの作品も丁寧に描かれ、見応えある作品ばかりだった。市長賞・理事長賞・稲毛賞・入選特選・入選には明確な審査理由も記載されており、評価基準への納得性がある。「いなげ八景」の歴史を解説するビデオが流されていたが、無音のため立ち止まってモニター画面を見入る必要がある。モノクロの歴史的な写真による構成のため、ナレーション音声をつけた方がわかりやすかった。モニターは2階に上がる階段手前に設置されていたが、入り口脇の第1制作室にあれば全員の目にとまり、鑑賞への導役の役割も果たすと思う。
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> ほぼ妥当 <input type="checkbox"/> 工夫により改善 <input type="checkbox"/> 見直し (評価の理由) 入賞者はこどもから一般までと広く、主体が「こども・若者」の感じは特に伝わってこない。作品に付けられたキャプションからは、毎日の通学や習い事・遊びの時間など、通い慣れている者の視点による「いなげ八景」への説明が盛り込まれており、日常の中に美しい景色がひそんでいることも示していた。こども・若者の、表現者としての視点を感じると共に、「現在の環境が守られるように」という願いの記載も多々見られ、視察者も共感した。 すべての部屋に共通ではなかったが、車椅子やこどもの視点で低めの展示の部屋があった点が良い。視察日は開催初日と授賞式後のため、観覧車には親子が多く、ギャラリー・いなげ庭園内の池の鯉に餌を与える姿なども見受けられ、高台にあるギャラリーの建物は存在も謎めいており、小学生が探検の気持ちで立ち寄り、仄々とした休日を過ごすには相応しい環境だった。

(3)領域の広がり	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> ほぼ妥当 <input type="checkbox"/> 工夫により改善 <input type="checkbox"/> 見直し
	<p>(評価の理由)</p> <p>こども・若者の地元においての記憶(思い出)は生涯を通じての人格形成にも影響する。絵画表現による「いなげ八景」により、愛着が生まれ、今後の定住化などの継続・継承にも繋がっていく。そうした心理は、環境や教育、文化によっても造られるため、市では継続した文化芸術のイベントを提供し、それらに触れる機会を増やす必要がある。開催4回を迎えた「いなげ 八景水彩画コンクール」は、絵画展としては地味な印象もあるが、継続していく価値がある。パンフレット配架には、市内の他ギャラリーや展示会の案内パンフレットが豊富に揃い、施設間の連携を感じ、市と県の美術館とは違う情報も得た。</p> <p>Webにギャラリーを設け、現地に足を運べない市民に対しても過去の作品のアーカイブ掲載をし、領域への広がりとして、継続イベントとしての立ち位置も示しながら、ギャラリーの環境の良さと作品の内容の厚みと深さも訴求を期待する。</p>

その他(評価すべき点・改善すべき点・気づいた点など)
<p>※評価指標1(3)他の基本施策への波及に該当する取組が見受けられた場合はこちらに記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策として、使用されていない展示室や倉庫も含め、全館の窓が開放されており、安心。快晴の穏やかな日で、古い建物独特の湿気やこもった匂いなども感じられなかった。かつての海辺の保養地の面影を残す旧神谷伝兵衛稲毛別荘と敷地を同じくするという環境の良さのなかで、建物を市民ギャラリーとして丁寧に扱う姿勢が来館者にも感じられた。 ・視察者は千葉市民ではあるが「いなげ 八景」については知識が乏しいため、館内展示は地域別にまとめられ小さな説明パネルも展示されていたが、展覧策マップと展示作品の位置関係が把握できなかった。コーナーごとに数字を振るなどし、八景のどのあたりか地図と照らし合わせて分かる構成が良い。「いなげ 八景」の画像と展示作品によるアプリなどで展示を鑑賞するだけの体験に終わらず、実際に散策しているような感覚も欲しい。後日に現場を訪れた際に該当の水彩画を読み込むことができるような、(3)のWebギャラリー内のコンテンツにも通じる。